



延岡新港

Nobeokashin Port

- 港湾区域認可 昭和45年8月24日
- 港湾区域告示 昭和47年12月12日
- 港湾区域面積 1,000ha
- 所在地 延岡市



美々津港

Mimitsu Port

- 港湾区域認可 昭和28年2月25日
- 港湾区域告示 昭和38年6月11日
- 港湾区域面積 312ha
- 所在地 日向市

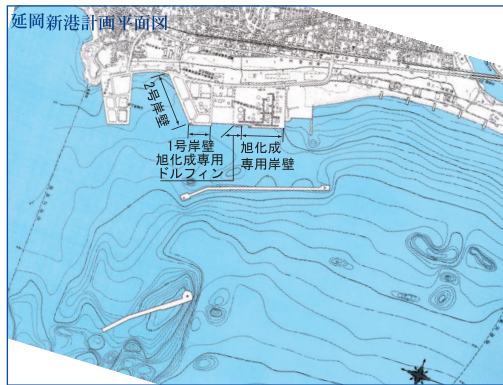
県北の新しい物流拠点

沿革

本港は、土々呂漁港の一部に含まれていたが、貨物量の増大に伴い昭和43年に建設計画が打ち出され、昭和47年に港湾区域を設定、同年度から産業関連施設整備事業(旭化成より申請)として防波堤建設に着工した。(※1:統計上の施設名称である)

昭和49年度以降改修事業、環境整備事業等による整備を進め、昭和54年に第1ふ頭を、昭和60年に第2ふ頭を、また、昭和63年、平成9年には県営上屋の供用を開始した。

本港は、延岡市を中心とする県北生活圏の一般物資、化学薬品・石油等などの化学工業品を取り扱う流通拠点港として重要な役割を担っている。



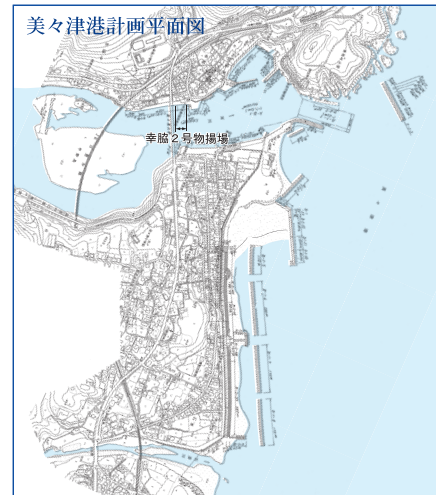
令和5年2月撮影

令和5年取扱施設				
施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	取扱い貨物
旭化成専用ドク	6.0	38	3,000(G/T)	重油
旭化成専用岸壁	6.0	200	3,000(G/T)	化学薬品、LNG(液化天然ガス)
第1号岸壁	6.0	120	3,000(G/T)	—
第2号岸壁	5.5	300	2,000(G/T)	木材チップ

神武天皇の御船出地 漁業活動の拠点

沿革

本港は、耳川河口に位置し、神武天皇の御船出地(日本海軍発祥地)伝説が残る港で 古くから耳川上流地域の木材や生活物資を運ぶ高瀬船、京阪神方面からの千石船が往来していたが、現在は漁業の基地としてこの地域において重要な役割を果たしている。



令和5年2月撮影

令和5年取扱施設				
施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	取扱い貨物
幸脇2号物揚場	2.0	50	5(G/T)	水産品

(※1:統計上の施設名称である)



平岩港

Hiraiwa Port

- 港湾区域認可 昭和45年8月24日
- 港湾区域告示 昭和45年9月18日(変更) 昭和50年8月8日
- 港湾区域面積 29ha
- 所在地 日向市



内海港

Uchiumi Port

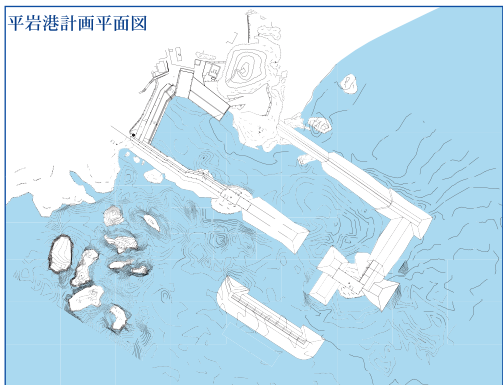
- 港湾区域認可 昭和28年2月25日
- 港湾区域告示 昭和28年3月13日(変更) 昭和46年12月21日
- 港湾区域面積 264ha
- 所在地 宮崎市

漁業活動の拠点

沿革

平岩港は、小倉ヶ浜南端に位置しており、昭和45年に56条港湾から地方港湾に昇格、同年より局部改良事業に着手し、外郭施設、係留施設の整備が進められ、現在は小型漁船の基地として利用されている。

隣接する小倉ヶ浜を中心としたこの一帯は、海水浴・磯遊び・サーフィンなどの海洋性レクリエーションが盛んであり、若者を中心として賑わっている。また、小倉ヶ浜は、全国的に有名な「ハマグリ基石」の材料であるチョウセンハマグリ産地でもある。



令和5年2月撮影

宮崎港の補完港

沿革

内海港は、古くより宮崎市の門戸として利用され、明治時代には大阪～鹿児島航路の定期寄港地となっていた。しかし、内海川からの砂の流入と外海からの波浪の侵入により港内に土砂が堆積し、船舶の出入りに支障をきたしていたため、大正時代に多額の費用を投じて整備された。

現在は、石油製品等の貨物の取扱いや漁業の基地として利用されている。



令和3年11月撮影

令和5年取扱施設				
施設名(※1)	水深(m)	延長(m)	船型	取扱い貨物
第2号岸壁	5.0	165	1,000(G/T)	砂利、砂、石材、セメント、揮発油、その他の石油
第1号物揚場	2.0	124	—	水産品
第6号物揚場	4.0	232	600(D/W)	—

(※1:統計上の施設名称である)